

2025 年度 教育課程

専 門 分 野 (小児)

小児看護学

構築の考え方

小児看護学は、あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に、看護が実践できる基礎的能力を養う領域として位置づける。

小児期は、成長・発達においてきわめて変化に富んだ多様な時期であり、常に環境との相互作用の中で成長発達を遂げる、生涯にわたる人間形成の基盤を養う時期として重要である。

少子化が進み、核家族化や女性の就業率の上昇、離婚率の上昇に伴い、家族の意識と役割は多様化している。このような子どもを取り巻く社会環境の変化に伴い、子どもの生活習慣病の増加、こころの問題、思春期の子どもの自殺、育児不安、児童虐待などが増加している。

このような変化の中で、子どもの健康問題の経過やおかれている状況、症状から見た看護、コミュニケーションを含む看護技術や代表的な健康問題などを学習する意義は大きい。

また、入院中の子どもだけではなく、家庭や学校などの生活場面および災害時において、すべての健康レベルの子どもとその家族が健やかに成長・発達していけるように考えることが必要である。

さらに、子どもを一人の人格ある存在として捉え、子どもの権利を尊重し、子どもと家族の価値観や意向を支援する必要がある。

以上のことから、小児看護学の授業科目構造は、小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4 単位（105 時間）並びに小児看護学実習 2 単位（90 時間）とし、合計単位数は 6 単位（195 時間）とする。

小児看護学概論では、小児期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と、社会との関係の中で健全に成長・発達を遂げるための看護の役割を理解する。

小児看護学援助論Ⅰでは、小児の成長発達における健康の意義を理解し、健康の保持増進、成長発達を促すための基本的技術や、健康障害児の診断・治療に伴う基礎的看護技術を理解する。

小児看護学援助論Ⅱでは、子どもにおこりやすい主な健康障害の原因・症状・治療の基礎的知識を理解する。

小児看護学援助論Ⅲでは、子どもにおこりやすい主な健康障害に応じた看護を実践するための基礎的知識と、援助技術を理解する。

小児看護学実習では、健康な子どもの成長・発達の理解や基本的生活習慣の獲得・自立促進を目指したかかわりと、健康障害を持つ子どもと家族の理解並びに、健康障害や対象特性に合わせた看護の役割と機能を理解する。

小児看護学

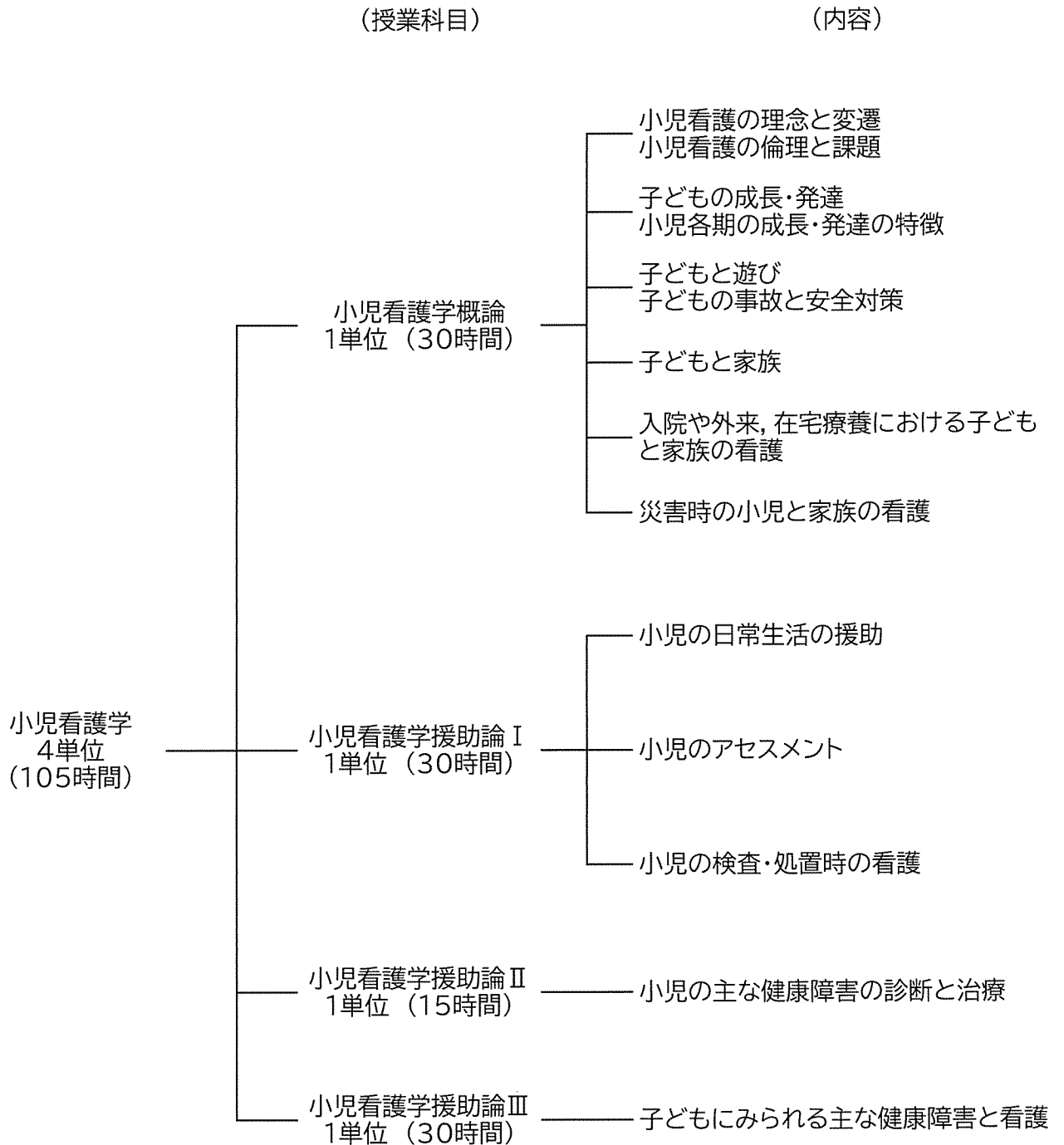
目 的

小児期にある対象の特徴を理解し，小児の成長発達に応じた養護と健康障害をもつ小児および家族の看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 小児各期にある対象の特徴を理解する。
- 2 小児各期の成長発達の意義を理解し，健康の保持増進に必要な看護の役割を理解する。
- 3 健康障害や治療が小児及び家族に及ぼす影響を理解し，対象の状態に応じた看護の方法を理解する。
- 4 小児を取り巻く社会の動向をふまえ，小児と家族を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

小児看護学 科目構造



科目名	小児看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	亀山 千里 (実務経験のある授業科目：看護師) 藤岡 寛 (//)						
ねらい	小児期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と、社会との関係の中で健全に成長発達を遂げるための看護の役割を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 小児看護の理念 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 2 小児観と小児医療・小児看護の変遷 3 小児看護における倫理 1) 子どもの権利 2) 医療・治療の選択と決定 4 小児看護の課題						講義
2 回	5 子どもの成長・発達 1) 成長・発達とは (1)成長・発達の原則 (2)発達段階と発達課題 (3)エリクソンの自我発達理論 (4)ピアジェ認知発達理論 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響する因子 4) 小児の発達・発育評価 (1)成長の評価 (2)発達の評価						
3～7 回	6 小児各期の成長・発達の特徴 1) 新生児の形態的・身体生理の特徴・各機能の発達 2) 乳児の形態的・身体生理の特徴・各機能の発達 3) 幼児の形態的・身体生理の特徴・各機能の発達 4) 学童の形態的・身体生理の特徴・各機能の発達 5) 思春期・青年期の子どもの形態的・身体生理の特徴・各機能の機能と発達						
8 回	7 子どもと遊び 1) 小児にとっての遊びの定義 2) 遊びの分類 3) 遊びの発達 4) 遊びに対する大人の関わり						
9 回	8 子どもの事故と安全対策 1) 子どもの事故の状況 2) 子どもの事故防止対策 (1)子ども自身の対策 (2)家庭環境での対策 (3)社会環境での対策						

10 回	9 子どもに関わる現代社会の問題 1) 現代の家族状況とケア (1) 育児不安 (2) 児童虐待 2) こころと行動の健康状態とケア 不登校・いじめ・拒食・過食 3) 身体の健康状況とケア 生活習慣病	
11・12 回	10 子どもと家族 1) 現代家族の特徴 2) 家族の機能と役割 3) さまざまな状況の家族 3) 医療費支援 4) 予防接種 (1) 予防接種の歴史 (2) 現在の予防接種	
13～15 回 (45 分)	11 入院中の子どもと家族の看護 1) 入院環境と看護の役割 2) 入院中の子どもと家族の特徴と看護 12 外来における子どもと家族の看護 1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 2) 外来の環境 13 在宅療養中の子どもと家族の看護 1) 子どもを取り巻く社会資源 2) 学校など多様な生活の場と看護の役割 14 災害時の小児と家族の看護 1) 被災地の環境と看護の役割 2) 災害時の小児と家族の援助	
(45 分)		
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・臨床看護総論（医学書院） 看護のための人間発達学 （医学書院）	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の 留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。	

科目名	小児看護学援助論 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：助産師）						
ねらい	小児の成長発達における健康の意義を理解し、健康の保持・増進，成長発達を促すための基本的技術や，健康障害時の検査・治療に伴う基礎的看護技術を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1～3 回	1 小児の日常生活援助の基本 1) 養護と基本的生活習慣自立への援助 2 小児各期の日常生活援助技術 1) 新生児，乳児期 (1)調乳方法と授乳の仕方 (3)遊び (2)おむつのあて方 2) 幼児期 (1)トイレトレーニング (3)遊び (2)衣類の着脱の仕方 (4)安全 3) 学童期 (1)遊びと学習 (2)安全教育 4) 思春期 (1)生活指導						講義
4 回	おむつ交換・調乳法						演習
5～7 回	3 アセスメントに必要な技術と進め方 1) コミュニケーション 2) 身体計測（身長・体重・胸囲・頭囲） 3) バイタルサイン測定（体温・呼吸・脈拍・心拍数） 4 身体的アセスメント 1) 観察の基本方法（問診・視診・聴診・触診） 2) 呼吸のアセスメント 3) 心臓・循環系のアセスメント 4) 腹部のアセスメント						講義
8 回	バイタルサインの測定						演習
9～14 回 (45 分)	5 小児にとっての検査・処置体験 6 発達に応じたプレパレーション 7 検査・処置の看護 1) 与薬 (1)小児の薬物動態 (2)経口 (3)注射 (4)座薬 2) 輸液管理 3) 抑制 4) 検体採取 (1)採血 (2)採尿 (3)採便 (4)骨髓穿刺 (5)腰椎穿刺 5) 浣腸 6) 酸素療法 7) 吸引 8) 救命処置 (1)CPR (2)人工呼吸法						講義
15 回	採血・点滴のシーネ固定・採尿						演習
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						

必須資料	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論総論 （医学書院）
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。
履修上の 留意事項	・ 出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。 ・ 演習には、講義で使用了た資料やテキストの該当箇所を復習して臨むこと。 ・ 演習時間は限られているので、積極的な参加態度を臨む。また、わからないところは、演習の際に担当する教員に積極的に質問し、技術習得に努めること。

科目名	小児看護学援助論Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：医師）						
ねらい	子どもにおこりやすい主な健康障害の原因・症状・診断・治療の基礎知識を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 小児にみられる主な健康障害 1) 呼吸器疾患 (1) 急性咽頭炎・扁桃炎 (4) 肺炎 (2) クループ症候群 (5) 気道異物 (3) 急性細気管支炎 (6) 百日咳						講義
2 回	2) 血管炎をきたす疾患 (1) 川崎病 (2) 血管性紫斑病 3) 腎疾患 (1) 急性糸球体腎炎 (2) ネフローゼ症候群 (3) 溶血性尿毒症症候群						
3 回	4) ウイルス感染症 (1) 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・突発性発疹 5) 1 型糖尿病 6) 神経疾患 (1) けいれん性疾患 (2) 脳性麻痺 (3) 髄膜炎						
4 回	7) 筋疾患 (1) 進行性筋ジストロフィー 8) 消化器疾患 (1) 腸重責 (4) ヒルシュスプリング病 (2) 胆道閉鎖症 (5) 肥厚性幽門狭窄症 (3) 鼠経ヘルニア						
5～7 回	9) アレルギー性疾患 (1) 気管支喘息 (2) 食物アレルギー 10) 先天性心疾患 (1) 心室中隔欠損 (2) ファロー四徴症 11) 血液疾患 (1) 貧血 (2) 出血性疾患 (3) 白血病 12) 悪性腫瘍 13) 先天異常 (1) ダウン症候群 (2) ターナー症候群						
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児看護学各論（医学書院）						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 予習・復習をして臨むこと。 ・ 小児の看護に必要な疾患の病態生理・検査・治療の講義なので、積極的な授業姿勢を望む。						

科目名	小児看護学援助論Ⅲ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：助産師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	子どもに起こりやすい主な健康障害に応じた看護の基礎的知識を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 子どもにみられる主な健康障害と看護 1) 呼吸器疾患の看護 (1) かぜ症候群の子どもの看護 (2) 肺炎の子どもの看護						講義
2 回	2) 循環器疾患の看護 (1) 川崎病の子どもの看護						
3 回	(2) ファロー四徴症の子どもの看護						
4 回	3) 消化器疾患の看護 (1) 形態異常のある疾患の子どもの看護 ①肥厚性幽門狭窄症 ②鎖肛 ③胆道閉鎖症 (2) 腸重積症の子どもの看護						
5 回	4) 血液・造血器疾患と看護 (1) 出血傾向のある子どもの看護 ①血友病 ②再生不良性貧血 (2) 輸血療法を必要とする子どもの看護						
6 回	5) 悪性腫瘍と看護 (1) 診断時・治療を受ける子どもの看護 (2) 移行期・再燃時の看護						
7 回	6) 腎・泌尿器疾患の看護 (1) 腎泌尿器疾患看護総論 (2) ネフローゼ症候群の子どもの看護 (3) 溶レン菌感染後急性糸球体腎炎の子どもの看護						
8 回	7) 神経疾患の看護 (1) 痙攣のある子どもの看護 (2) 脳性麻痺の子どもの看護						
9 回	8) 運動器疾患の看護 (1) 牽引中・ギブス装着中の子どもの看護						
10～11 回	9) 代謝性疾患と看護 (1) 1 型糖尿病をもった子どもの看護 10) アレルギー疾患と看護 (1) 食物アレルギーを持った子どもの看護 (2) 気管支喘息の子どもの看護						
12～13 回	11) ウイルス感染症の看護 (1) 子どもの感染に関する基本的知識と看護 (2) 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の子どもの看護 12) 先天異常と看護 (1) ダウン症候群の子どもの看護						講義

14～15 回 (45 分)	13) 事故・外傷と看護 (1) 頭部外傷 (2) 誤飲窒息 (3) 溺水 (4) 熱傷 (5) 熱中症	
(45 分)		試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児看護学各論 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の 留意事項	・科目内容が細分化されており、複数の講師が担当するので、出席は自己管理のうえ、 欠席で済むように健康管理に留意すること。 ・既習の小児看護学援助論Ⅱ (疾患) の復習をして臨むこと。	

2025 年度 教育課程

専 門 分 野（母性）

母性看護学

構築の考え方

母性看護学は、看護の対象である人間を性と生殖の側面からとらえ、母性機能が健全に発達し、その機能が十分に発揮できるよう援助できる能力を養う領域として位置づける。

近年、女性の社会進出と生き方が多様化し、出産・育児にこだわらず、自分らしい生き方を選択する女性が増え、未婚率・非婚率の上昇や、「産まない選択」をする女性の増加に呼応するように、日本の少子化は歯止めがかからない。

また、女性の価値観の多様化に伴い、晩婚化とともに出産開始年齢の高齢化に伴う不妊症の増加・生殖補助医療の発展や、生命誕生に対する倫理観も多様化している。

一方で、性行為開始年齢の低年齢化とそれに伴う 10 代の性行為感染症（STD）や、若年者の人工妊娠中絶の増加など、女性を取り巻く社会環境は複雑に変化している。

さらに、核家族化・少子化の進展に伴う子どもとふれあう機会や育児体験の減少は、出産後の育児不安の増加を招き、専門家による子育て支援の必要性が増している。

このような社会背景から、母性看護学の対象は、次世代を担う子を産み育てる女性だけでなく、周産期を中心とした「産む性」としての女性や父性としての男性、さらには、人間の生の出発点である家族を含め、広い視野で捉える必要性が大きくなっている。

これらのことから、看護基礎教育における母性看護学では、看護の対象を性と生殖の健康と権利（リプロダクティブヘルス／ライツ）という観点から理解する。また、人類誕生から脈々と受け継ぐ種の保存と、人間においての「生」と「性」の重要性を理解する。さらに、周産期における対象は健康であることを念頭において、日常生活における基本的なセルフケア能力を維持・促進できるよう援助を行うことに焦点をあてる。一方で、妊娠・出産は母子ともに生命の危機的状況に陥ることもある。常に、正常と異常が表裏であること、母子は一体であることを念頭において支援することが重要である。

さらに、学生は、次世代を担う母性・父性を豊かに育むべき対象者であることから、学生自身が生命の尊さと次世代の誕生に必要な母性及び父性、家族の重要性を理解し、健全な母性観・父性観を育むことができるように支援する。

以上のことから、母性看護学の授業科目構造は、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4 単位（90 時間）並びに母性看護学実習 2 単位（90 時間）とし、合計単位数は 6 単位（180 時間）とする。

母性看護学概論は、母性看護の概念、人間の性と生殖、母性看護学領域における対象の特徴や、母性の対象を取り巻く環境と諸問題について理解する。

母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱは、妊娠・分娩・産褥各期の経過と新生児の経過について理解し、妊娠・分娩・産褥期及び新生児期が順調に経過するための看護師の役割と看護を理解する。

母性看護学援助論Ⅲは、女性のライフサイクル各期における健康問題と保健活動について理解する。

母性看護学実習は、周産期における対象特性（妊娠期・分娩期・産褥期の連続性）や、母子を一体として捉える領域特性を理解し、それぞれの時期の対象に応じた看護を実践する基礎的能力を習得する。

母性看護学

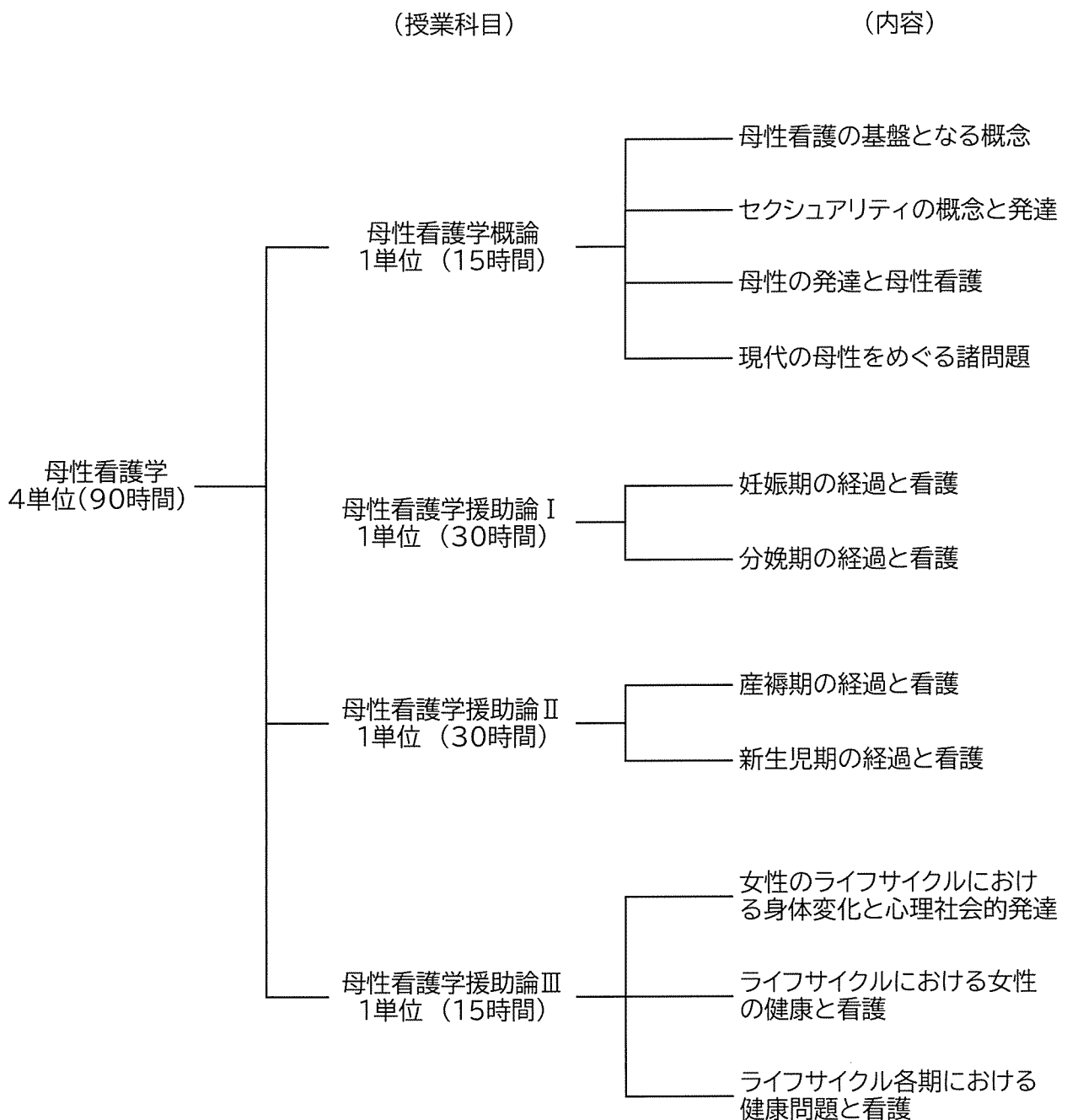
目 的

看護の対象である人間を性と生殖の側面からとらえ、母性機能が健全に発達し、その機能が十分に発揮できるよう援助するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 母性看護の対象の特徴を理解する。
- 2 母性対象を取り巻く社会環境や、母性の健全育成のために必要な援助のあり方を理解する。
- 3 周産期にある対象に必要な援助の方法を習得する。
- 4 母性看護の対象を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。
- 5 生命倫理について理解を深めるとともに、生命を尊重する態度を培い、学習者自身の母性性・父性性を養う。

母性看護学 科目構造



科目名	母性看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	佐藤 三恵子（実務経験のある授業科目：助産師）						
ねらい	性と生殖の側面から母性看護の対象の特徴を理解し、母性看護の機能と役割を理解するとともに、多様化する現代社会における課題を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは 2) 母性看護学の対象 3) 母性看護学を学ぶ意義 2 セクシュアリティの概念と発達						講義
2・3 回	3 性周期とリプロダクティブヘルス/ライツ 4 母性の発達と母性看護 1) 親になることと母性・父性 2) 母性看護の対象 3) 母性看護の目標と看護活動の場						
4～7 回	5 母子の健康支援施策 1) 妊娠・出産にかかわる施策 2) 育児にかかわる施策 6 母性看護をめぐる諸問題 1) 国際化社会における課題 2) 児童虐待と母（父）子関係の課題 3) リプロダクティブヘルスケア (1)家族計画（避妊法含む） (2)性感染症 (3)人工妊娠中絶 (4)喫煙・飲酒 (5)性暴力 4) 多様な性のあり方：性的マイノリティ（LGBT 含） 5) 遺伝的課題 6) 不妊						講義 GW
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験 GW への参加 レポート課題						総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論（医学書院）						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留 意事項	・ 出席時間は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。・ グル -プワークには積極的な参加姿勢を望む。						

科目名	母性看護学援助論Ⅰ（妊娠期・分娩期の対象理解と看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （30 時間）	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：助産師） 本校職員（実務経験のある授業科目：助産師）						
ねらい	妊娠期・分娩期における対象の身体的・心理的・社会的特徴と正常な経過について理解し、対象が各期に適応し、母子ともに安全・安楽に経過するための看護の役割と対象に応じた看護を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
<妊娠期> 1 回	1 マタニティサイクルとは 2 妊娠期の身体のしくみと疾患の理解 1) 妊娠期の身体的特性と心理社会的特性 妊娠の定義とメカニズム 妊娠に伴う母体の変化と心身社会的変化 胎児の成長・発達						講義
2 回	2) ハイリスク妊娠 ハイリスク妊娠の定義と管理 3) 妊婦と胎児にみられる異常						
3・4 回	3 妊娠期における看護 1) 健康診査 2) 妊娠各期の保健指導 3) 合併症をもつ妊婦のケア						
5・6 回	レオポルド触診法 子宮底・腹囲の測定						演習
7・8 回 （45 分）	4 健康問題をもつ妊婦のケア 1) 切迫流早産 2) 妊娠高血圧症候群 3) 糖尿病合併妊婦と妊娠糖尿病						講義
<分娩期> 1～3 回	5 分娩時の身体のしくみと正常からの逸脱の理解 1) 分娩の生理 分娩の三要素と分娩経過 2) 産痛と無痛分娩 3) 産婦の心理社会的変化 4) 産婦にみられる異常						講義 DVD 視聴
4～7 回	6 分娩期における看護 1) 分娩開始前の看護 2) 分娩第Ⅰ期の看護 3) 分娩第Ⅱ期の看護 4) 分娩第Ⅲ・Ⅳ期の看護						講義
（45 分）							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整え、欠席しないよう授業に臨むこと。 ・演習には講義で使用した資料・テキストの該当部分を復習して臨むこと。 ・演習時間は限られているので、積極的な参加姿勢と望む。またわからないところは、演習の際に担当教員に積極的に質問し、技術習得に努めること。						

科目名	母性看護学援助論Ⅱ（産褥期・新生児期の対象理解と看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （30 時間）	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：助産師） 本校職員（実務経験のある授業科目：助産師）						
ねらい	産褥期における対象の身体的・心理的・社会的特徴と正常な経過を理解するとともに、新生児の正常な経過を理解し、それぞれの対象が各期に適応し、安全・安楽に経過するための看護の役割と対象に応じた看護を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
<産褥期> 1～3回	1 産褥期の身体のしくみと疾患の理解 1) 産褥の経過 身体的変化：退行性変化と進行性変化 心身社会的変化 2) 褥婦にみられる異常						講義
4・5回	2 産褥期・育児期における看護 1) 産褥経過のアセスメント 2) 母親になる過程の看護 3) 母子の健康を促す看護						
6・7回	3 健康問題をもつ褥婦の看護 1) 乳房トラブルをもつ褥婦の看護 2) マタニティーブルーと産後うつ						
<新生児> 1・2回	4 新生児の身体のしくみと疾患の理解 1) 新生児の生理 2) 子宮外環境への適応 呼吸・循環・体温 ビリルビン代謝・水電解質代謝 消化と吸収 神経系：反射 感覚機能 免疫						講義
3回	3) 新生児にみられる異常						
4・5回 （45 分）	5 新生児の看護 1) 出生直後から 24 時間の看護 2) 移行期後の看護 3) 生後 1 ヶ月健診に向けた看護						講義 GW
6・7回	新生児のバイタルサインの測定・アセスメント・身体計測 沐浴（衣服の着脱・際の処置含む）						演習
8回	6 健康問題をもつ新生児の看護 1) 高ビリルビン血症児の看護 2) 低出生体重児の看護 3) ハイリスク新生児の看護						講義
（45 分）							試験
評価方法 及び観点	筆記試験 レポート GW への参加姿勢 } 等総合的に評価する。						
必須資料	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。 ・演習には、講義で使用した資料・テキストの該当箇所を復習して臨むこと。 ・演習時間は限られているので、積極的な参加姿勢を望む。また、わからないところは、演習の際に担当する教員に積極的に質問し、技術の習得に努めること。 ・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。						

科目名	母性看護学援助論Ⅲ（母性保健）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （15 時間）	対象 年次	3 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：助産師）						
ねらい	女性や家族のライフサイクルにおける健康課題や、母性各期の保健活動について理解し、次世代育成や母性の健全な発達のための援助を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1・2回	1 女性のライフサイクルにおける身体変化 2 女性としての心理・社会的発達						講義
3～7回	3 ライフサイクルにおける女性の健康と看護 1) 性周期と女性のライフサイクル 2) 性差と女性の健康 3) 女性とメンタルヘルス 4 ライフサイクル各期における健康問題と看護 1) 思春期の健康問題と看護 (1)貧血 (2)初経および月経前緊張症 (3)子宮頸がんの予防行動 (4)摂食障害 2) 成熟期の健康問題と看護 (1)月経困難症 (2)生殖器疾患：子宮筋腫・子宮内膜症・子宮頸部がん 3) 更年期・老年期の健康問題と看護 (1)更年期障害・更年期うつ (2)尿失禁 (3)骨粗鬆症 (4)生殖器悪性腫瘍：子宮体がん (5)ロコモティブシンドローム						講義 GW
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験 GW への参加度 レポート						
必須資料 （テキスト等）	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 （医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。						